

演 題	障がい者の旅行について考える
副 題	T様ご一家の家族旅行を支援した経験から

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ ナーシングプラザミタマ
施 設 名	介護老人保健施設 ナーシングプラザ三珠
フリガナ	カイゴシヨク イシワタリ ヒロヤス
発表者(職名・氏名)	介護職 石渡 裕康
フリガナ	シセツシヨクインイチドウ
共同研究者	施設職員一同

### 【はじめに】

昨年秋、当施設に入所されているT様ご家族より「お父さんと旅行に行きたい」とのご提案をいただいた。それを受け、施設では多職種で構成された「家族旅行支援委員会」を立ち上げた。ご本人様やご家族様が安心・安全に旅行をするための課題を、各委員の専門的な視点から挙げ、より良い旅行となるよう施設全体で支援することとした。

また予め、ご家族様（同行するT様の奥様と息子様ご夫婦の計5名）からも旅行に際して不安に感じていることを聴取し、これらも併せて解消できるようにした。

これら旅行の障壁となり得る課題を、旅行当日までに施設全体で解消したその取り組みの経緯を紹介する。

### 【T様紹介】

70歳代後半の男性。介護度は4。約7年前に発症した脳出血により、左片麻痺・左半側空間無視等の高次脳機能障害・嚥下障害が後遺症として残存し現在に至る。日常生活活動への介助量は中等量以上を要す。

### 【課題の抽出】

施設職員からは移動方法・宿泊先・入浴・排泄介助・移動介助・移乗介助・食事・内服・緊急時の対応といった課題が挙げられた。

### 【ご家族様、旅行前の不安】

ご家族様からは宿泊施設内の移動に関することや入浴・排泄の設備といったハード面に係る不安や、食事の誤嚥や車酔い、移乗といった身体能力面に係る不安が多く挙げられた。

### 【取り組み】

旅行までの約6か月間をかけ「家族旅行支援委員」の各委員から挙げられた課題とご家族様から出された不安を精査し、日常生活活動の介助方法の見直しやリハビリによりこれらを解消することとした。以下はその主な取り組み。

- 宿泊先；宿泊施設の様子を事前調査し、バリアフリー設備の整ったホテルを選定した。
- 移 動；福祉車両を町より貸与。また車酔いの有無確認のためドライブ練習を行った。
- 移 乗；ご家族様に移乗方法を指導した。また宿泊施設の設備を考慮し、麻痺側からの移乗練習を行った。
- 排 泄；ご家族様に排泄介助を指導した。また日常ポータブルトイレを使用していたが、障がい者用トイレでの排泄に変更した。
- 入 浴；日常、寝位入浴を行っていたが、ホテル設備に合わせ座位でのリフト浴に変更した。また入浴ヘルパーを依頼し、身体状態や留意点を予め書面や口頭で伝えた。
- 食 事；日常食している食形態をホテル調理担当者に伝え、施設同様の食形態を依頼した。

### 【考察】

昨今、障がい者の外出や旅行がマスコミなどで取り上げられるが、耳にするのは施設設備が身体機能面にそぐわないことや、安全面が確保できないこと等を理由に適切なサービスを受けられなかった、といった残念な話題ばかりが目立つ。障がい者が街に出るといことは、殊の外、様々なハードルが待ち受けていることを改めて感じざるを得ない。

しかし、今回の取り組みのように、我々介護福祉に関わる者は、それらハード面やソフト面、何より旅行しようとしている方の課題を事前に推測し、解消し、更には助言することができる。

東京オリンピック・パラリンピックを3年後に控えているにも関わらず、障がい者が自由に旅行できる環境であるとはまだまだ言い難い日本。障がい者の生活を援助する専門家として、バリアフリーに関する課題や問題点を介護福祉分野からも積極的に発信することで、今後もっと障がい者が旅行を楽しめる社会へと変えることができるものと考えます。

### 【おわりに】

「ぜひ来年も旅行に行きたい」旅行後のご本人様とご家族様の感想が我々には何より嬉しかった。

